



チャットGPTとは、2022年11月にOpenAIが公開した人工知能チャットボットである。瞬く間に世界中に広まり、最近では、生成系AIやチャットGPTに関する話題を見ない日はない。筆者が初めてチャットGPTを知ったきっかけは、昨年12月あたりに、Twitterで研究者が「こんな回答をした」というやりとりであった。実際に使ってみるのは、それよりも後で、世間で騒ぎ始めた頃だった。質問の仕方によつて、曖昧な質問をすると、意図とは違う回答が返ってきたり、未来

チャットGPTを有効活用するには

日々、生成系AIに関する新しいツールや、チャットGPTの活用方法が更新される。それらの情報から少し目を離した途端、ついていけない状況である。チャットGPTは時間がかかる作業や、繰り返しが必要な作業を得意としているので、覚えて使っていきたいものが多い。ビジネスの現場では、このような作業に時間を奪われているため、これらのAIツールを使いこなせることで、業務の効率化につながる。都道府県などの地方自治体でも、生成系AIの試験導入や実証実験を行い、活用する動きが拡大している。

教育現場では、東京大学をはじめ、多くの大学では、レポート作成には、参考文献の明記はもちろんのこと、どのように入力するか、ルールを知り、それらを守って活用することが大切である。自分の考えなのか、他人の考えなのかを明確にすることで、自分の考えについては、そのように考える根拠の明示が必要となる。そのためには、参考文献を用いて、必ず引用することになる。よって、生成系AIの活用についても、同じことが言える。何が問題なのかを理解し、事実かどうかの検証を必ず行うことは欠かせない。新しい技術は、使うことにより、どのようなものかを理解することができる。これらを知らない場合、悪用を見逃すことにもなりかねない。知らないことを知ることが学びの原点であると考えられる。

繰り返して

使って学ぶ

予測は苦手であったり、参考文献は明示してくれなかったり、使う側のスキルを試されているように感じ



愛知淑徳大学 准教授 江美 藤木

新学期早々、学生が生成系AIのみを用いたレポートや論文を作成することを認めない、などの発表がなされてきた。また、夏休みが近づいてきているので、小・中・高等学校でも、夏休みの課題に関して、同様の注意喚起がなされはじめています。

担当する授業において、レポートを作成する際に、引用、および、参考文献の使い方を重要視している。

ふじき・みえ 統計科学、統計教育。大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻博士後期課程修了。博士(工学)。